

### 平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「中山道」をモチーフにした観光及び地域ネットワーク拠点作り
事業主体 (連絡先)	立科町 (立科町大字芦田 2532 電話 0267-56-2311 立科町教育委員会)
事業区分	(3) 教育文化の振興
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	6,858,720円 (うち支援金: 3,000,000円)

#### 事業内容

平成26年4月にリニューアルオープンしたふるさと交流館芦田宿は、町を訪れる方への情報提供のみに関わらず、地域の方々の学習の場、地域の各種グループの文化活動の場、あわせて町内外の人々の交流の礎づくりにより地域を元気にできるよう事業に取り組んだ。

- ・町の歴史文化を紹介するパネル展及び交流館講座の開催
- ・立科町地形模型（ジオラマ）製作
- ・地域史料のデジタルアーカイブ化及び復刻版の印刷製本
- ・交流館施設案内の充実



【初心者のための古文書入門講座で本陣の宿札を読み解いている。】

#### 事業効果

①観光客への情報提供等の充実  
リーフレットの作成や案内看板の設置は、街道歩きの方々への情報提供になり、交流館への来館につながる。

②地域学習及び町内外者の交流の場の創出  
平成26年度より4月から11月まで常時開館、12月～3月には交流館講座や作品展により、来館者数は3,000人ほどとなった。これは常時開館前の500人ほどを大きく上回りました。このことは、街道歩きなどで町を訪れる方は多く、また、交流館講座や作品展により町内の方にも来館してもらえたと思われる。

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

#### 【目標・ねらい】

- ①観光客への情報提供等の充実
- ②地域学習及び町内外者の交流の場の創出

#### 今後の取り組み

ふるさと交流館の常時開館により、街道歩きなどで町を訪れる方が多いことが分かった。また、交流館講座により町の歴史文化に興味関心のある方々との交流も持てました。これらを踏まえ、年度内に活用ができなかったジオラマにより、子どもたちの地域学習の充実を図るとともに、交流館講座に関わっていただいた方々と協力して、継続したグループ活動などで地域ネットワーク拠点作りを着実に進めていきたい。

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

#### ※自己評価【B】

【理由】  
所期の目的達成のために事業に取り組みましたが、年度内に活用を図ることができなかったものもあったため。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある